

令和6年10月9日
(2024年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南千里中学校
校長 生駒 靖子

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

【国語】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問において全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○話すこと・聞くこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

- ・特に「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと」が全国値よりも大きく上回っている。

(課題)・「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと」「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる」には若干無解答がある。

○書くこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

- ・特に「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように

工夫すること」は全国値よりも大きく上回っている。

(課題)・「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」は無解答がある。

○読むこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

・特に「目的に応じて必要な情報に着目して要約すること」は全国値よりも大きく上回っている。

(課題)・「目的に応じて必要な情報に着目して要約すること」には無解答がある。

○言葉の特徴や使い方に関する事項

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

・特に「表現の技法について理解しているか」は全国値よりも大きく上回っている。

(課題)・「文脈に即して漢字を正しく書く」は正答率の面から改善の余地がある。

○情報の扱い方に関する

(成果)・全国値を上回っている。

・「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているか」は全国値を上回っている。

(課題)・「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているか」は全国値を上回っているものの正答率に課題が見られる。

・「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているか」は全国値をわずかに上回っている。

○我が国の言語文化に関する事項

(成果)・「行書の特徴を理解しているか」は全国値を上回っている。

(課題)・「行書の特徴を理解しているか」は若干無解答がある。

(3) 国語科における成果と今後の改善点について

全体的に平均正答率が高く、すべての設問の正答率、解答率で全国値を上回っている。

また、「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」に対する回答が非常に良好である。これは、生徒たちが1,2年生の間に、国語の授業を意欲的に取り組んできた結果だと考えられる。

一方、記述問題の無解答率が高い傾向はあるが、正答率が高いため、書くことが得意になった層と、書くことが苦手な層とが共存している状況にあることがわかる。そのため、根拠を明確にし、意見を伝えるための文章を書くことについて今後も継続していく必要がある。また、今回課題として取り上げた「情報の扱いに関する事項」に関連する「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係をとらえて理解しているか」に対しては「どちらかといえばしている」の回答が他の質問に比べて多く、よりこの点を重視した授業づくりが必要である。

【数学】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問について全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○数と式

- (成果)・問題場面における考察の対象を明確に捉えることはできている。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- (課題)・統合的・発展的の考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題になると、無解答としてしまう生徒が増える。

○図形

- (成果)・筋道を立てて考え、証明することができている。
- ・回転移動について理解している。
- (課題)・角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことに課題がある。

○関数

- (成果)・与えられた表やグラフから、必要な情報を読み取ることができている。
- ・グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈できている
- (課題)・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

○資料の活用

- (成果)・簡単な場合についての確率を求めることができ、与えられたデータから最頻値を求めることができる。
- (課題)・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ・複数の集団のデータの分布から四分位範囲を比較することに課題がある。

(3) 数学科における成果と今後の改善点について

全国値と比較すると、すべての問題において平均正答率は高い。数学的な知識や問題を解く技能は定着していると見受けられる。しかし、その知識や技能を用いて、事柄の理由や問題の解決方法を説明することになると、無回答率が増えると同時に、正答率も減る傾向にある。

今後は、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する活動や、事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実する必要がある。また、データの活用では、複数の集団のデータの分布から四分位範囲を比較して読み取り、判断の理由を

数学的に説明する活動を充実する必要がある。

学習状況調査においては「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」では全国値よりも上回っているが、さらに多面的・多角的に問題を捉えて解決することの有用性がわかるような課題に取り組んでいく必要がある。

2 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」より（●は課題について）

（1）家庭生活について

- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定的回答は全国値をやや下回っている。
- 「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしますか」に対して、1時間以上の割合は全国値より下回っている。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」に対する肯定的回答はやや少なく、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータを持っているが、約束はない」割合が全国値をやや上回っている。
- 「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）」に対して、100冊以上と答えた割合は全国値を大幅に上回っている。

改善・向上のために

調査結果から、携帯電話やスマートフォンの利用で時間を使っている割合は少なく、読書や勉強に時間を費やす時間が多いことがわかります。

一方、携帯やスマートフォンを使う際のルールを設けずに使用している生徒も見られるので、教員・保護者対象情報モラル研修等を通じて、家庭にルールの設定を働きかけるとともに、SNS等でのトラブルやその危険性について、道徳、特別活動、本市デジタル・シティズンシップ教育を通して、引き続き行動化を啓発していきます。

（2）自分自身について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、「当てはまる」と回答した割合は全国値を上回っているが、同時に「当てはまらない」と回答した割合も全国値を上回っており、二極化が見られる。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」（今回新出）に対する肯定的回答は全国値をやや下回っている。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的回答は全国値を若干下回っている。

改善・向上のために

「いじめはどんな理由があってもいけないことである」ということを再確認させると同時に、本市「いじめ予防授業“Triple-Change”」をもとに取り組みを粘り強く継続し、いじめの未然防止に努めます。

また、一部の生徒は自己肯定感の低さがうかがえるので、自尊感情を高められるように、学級活動や行事等を通じて働きかけていく必要があります。

(3) 学校生活・学習について

- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的回答は全国値をやや上回っている。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する肯定的回答は全国値を上回っている。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は全国値を上回っている。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は全国値を大きく上回っている。
- 一日当たりの勉強時間（塾含む）について、全国値を大きく上回り、土日の勉強時間については、2時間以上と回答した割合は全国値の2倍を超えている。その裏付けとして、「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか」について、「学習塾などで勉強している」と回答している割合が6割を上回っている。

以下は「1, 2年生のときに受けた授業で」

- 「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」について、週3回以上と回答した割合が、全国値に比べて大幅に上回っている。
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」、「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」に対する肯定的回答は全国値を大きく上回っている。

改善・向上のために

多くの生徒について、教員との信頼関係が培われていることがわかります。まずは居心地のいい学級がベースであり、安心・安全の学校となります。生徒と生徒、生徒と教員とのつながりを大切にした学校教育活動を実現していきます。

学習指導要領のめざす学力観をめざし、ICT機器の利活用や主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりを推進してきたことが生徒回答に反映されています。今年度は授業改善に向けた研究授業を6本（うち市内公開授業3本）、英語科常時公開授業（指導教諭）、い

じめ予防授業・デジタル・シティズンシップ教育授業・少人数指導授業（指導主事による指導助言）を実施しています。引き続き、個別最適な学び、協働的な学びによる学力向上（数値で表れない学力も含む）に向け、教員研修の充実を図っていきます。

3 今後の取り組み

☆学校教育目標

自ら学び、ともに繋がり、やり抜く生徒の育成

☆学力向上研究テーマ

「自ら課題を発見し、仲間と共に解決して、考えを深めよう」（2年次）

学習指導要領に沿った授業づくりを行いながら、生徒に求められる力の育成を図るべく、能力ベースの授業に焦点を当て、上記のテーマを設定する。

- ・学校目標に基づいた研究や校内研修を生かしながら、教職員が日々の授業で“主体的・対話的で深い学びの実現”を意識した学習活動となるよう、ICTの利活用を進めつつ、引き続き授業改善に取り組めます。
- ・今年度は研究テーマの実現に向けたアプローチとして、探究的な活動により各学年でプレゼンテーションの機会を設け、準備しています。各教科の学びから自ら課題を設定し、探究していくプロセスを大切にしつつ、アウトプットの力の育成、交流をめざしていきます。
- ・3年生では数学および英語で習熟度別での少人数指導（1クラスをおよそ1対2に分割）を行ってきました。他学年においても、補習など個別の対応も取りつつ、よりきめ細やかな指導に努めます。
- ・道徳では全学年水曜日1限に実施し、担任以外の学年教員も参画したローテーション授業を行っています。授業の中で意見を交流し、多様な考えに触れながら自らの考えを深めていく「考え、議論する道徳」をめざします。
- ・総合文化発表会、体育大会を終え、教科での学びを生かしながら、仲間とともに主体的に協働し、集団としての成長も見られました。今後とも個々の学校生活への意識を一層高め、取り組みの充実を図っていきます。